

# IDDNewsletter.....11

2020 November



## 特集

## 美しさを生む手仕事「藍染め」

現在では、伝統工芸と呼ばれる藍染め。その古くは明治時代から、庶民が衣服などに取り入れてきた歴史があります。

情報デザイン科では、造形デザインの教材として草木染めを扱いました。今回は、その草木染めの1つである藍染めの歴史や、藍染めによる制作までの行程を紹介したいと思います。



# 美しさを生む手仕事「藍染め」

現在では、伝統工芸と呼ばれる藍染め。その古くは明治時代から、庶民が衣服などに取り入れてきた歴史があります。

情報デザイン科では、造形デザインの教材として草木染めを扱いました。今回は、その草木染めの1つである藍染めの歴史や、藍染めによる制作までの行程を紹介したいと思います。

今年度は、4月に入学式を終え、数日間の登校ののち、新型コロナウイルス感染拡大防止による休校となりました。そのような情勢の中、学習用の課題とともに、藍の栽培キットを段ボールに詰めて学生の自宅へ郵送しました。数日後、ビデオ会議アプリ「zoom」を活用し、遠隔通信による教師と学生の対話を行いながらの藍の種まきのスタートです。画面を通しての種まきは、実物が目の前にない難しさもありましたが、互いに顔を合わせることができ、こちらの手本も伝わりやすいものでした。週1回はzoomで藍の様子を情報交換し、6月の休校明けには、芽が出ているであろうと予測することができました。すると、6月1日の登校で学生に持参してもらった育苗ポットには藍の芽が青々と伸びていました。

藍の生育を見守りつつ、藍染めの方法（絞り染めや板挟みなど）や手法、藍染めの歴史についても触れました。藍染めを楽しむにはたくさんの技法があり、それらを組み合わせたり布地の色を変えたりすることで、とても豊富なデザインが広がります。藍染めの代表的な技法は12種類あり、まずは市販の藍染めキットを使い、30cm×30cmのハンカチに1つ1つ8種類の技法で染め上げました。技法には、板や紐、かご、棒などの道具を使いますが、手の感覚や力の強さだけでなく、直感的な調整も色の風合いに美しく表現されることに感動を覚えました。直感的な調整とは、布の風合いや大きさによって、棒を巻き付ける方向を変えたり、できあがりイメージしないで思いのままに絞ったりすることで、色のかすれ具合



棒絞りの技法を対角線で絞ったデザイン

や柄の不均一さが美しさを際立て、まさに「手仕事」によるものだと感じています。

次に、藍染めの歴史について文献より紹介します。

日本の藍染めは7世紀頃に中国から伝わり、当初の生薬染から後に「薬（すくも）法」と呼ばれる発酵建ての方法が一般的となりました。当時は、どのような繊維（天然繊維）にも染まりやすく、防虫などの効果もある藍は、その生産が最も盛んだったのは、同時期に普及してきた木綿布との相性がよかったことがあげられます。江戸時代になると藍染は庶民向けの衣類や雑貨にも浸透していき、着物から帯、仕事着、のれん、浴衣、とあらゆるものに藍染が使われていました。明治初頭に来日したイギリス人科学者のアトキンソンさんが、その街中にあふれる藍色に感激し、「ジャパン・ブルー」







と賞賛したことで、藍染めの深みのある青を「ジャパン・ブルー」と呼ぶようになったようです。現代では、合成染料や安価なインド藍におされ、国内生産量は激減。日本中の農村でごく当たり前に行われていた手仕事が伝統工芸の高級品として扱われるようになりました。

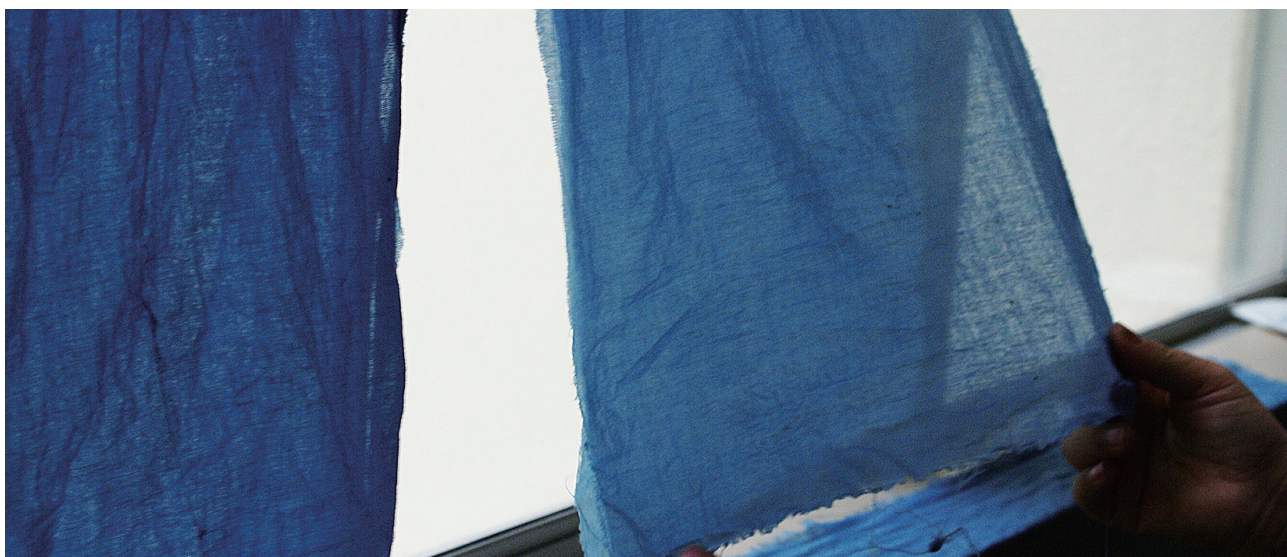
さて、藍の生育状況に戻りますが、育った藍で藍染めをするのが1つの目標でもありました。学校の畑に定植した苗の生育が悪かったため、その原因を文献で調べてみると、「藍の生育には、天候のほか一日の温度差などが微妙に関係して、藍の含有が異なる。潮風は葉に悪い影響を与えます。」と書いてありました。潮風…本校の立地は海のすぐ側ですので、残念ながら藍の生育に悪影響を与えていることがわかりました。それから、慌てふためいて藍をプランターに移し、室内に運んでみましたが、対応が遅かったようで、うまく生育したのは5株のみとなりました。

藍に含まれる色素は不溶性（液体に溶けない、または溶けづらい）のため、他の染料植物と同じように煮ても色素は取り出せません。そこで、藍を甕（かめ）に入れ時間（100日）をかけて発酵させたり、還元剤（酸化物から酸素を取り出す

薬剤）を用いたりして藍液をつくります。この作業を「建て」といいます。こうしてできた藍液に生地を浸し、その後、空気にさらすと直後は深緑色となり、徐々に酸化して青に発色していきます。これが、上記で述べた「薬法」です。

学校では、採れたわずかな藍の葉と、頂き物の藍の葉でなんとか、藍の生葉を使ったハイドロ建てによる染色を行いました。生葉染めは、発酵建てとは違い、独特の匂いはなく、ミキサーで葉を粉碎する工程では、フレッシュな葉の香りが漂いました。ハイドロ建ての藍液が完成するまで約2時間。染め上げるまで1時間。染め上がったその色は、市販の藍染めキッドと比較すると、くすみのない鮮やかさがあり、温かみのある空色という表現が合うと思います。藍染めの色は48色あると言われており、できあがった作品の表情は、多彩な色合いと手仕事によって作り出されたものだと思います。手仕事は、当然のことながら時間がかかり、相応の技術も必要ですが、改めて丁寧な手作業の積み重ねが美しさを生むことに気づかされました。

IDDN



# Contents

2-3

特集

## 美しさを生む手仕事「藍染め」

現在では、伝統工芸と呼ばれる藍染め。その古くは明治時代から、庶民が衣服などに取り入れてきた歴史があります情報デザイン科では、造形デザインの教材として草木染めを扱いました。今回は、その草木染めの1つである藍染めの歴史や、藍染めによる制作までの行程を紹介したいと思います。



Welcome to Information Design Department!!

## 令和3年度の 入学生を募集しています！

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科では、令和3年度入学生を募集しています。聴覚障害のある方で、高等学校や、特別支援学校高等部を卒業等していれば、入学できます。それ以外の年齢制限や条件はありません。道外の方でも入学できます。昼食は給食を利用でき<sup>(注1)</sup>、希望があれば、寄宿舎に入ることもできます<sup>(注2)</sup>。

※入学条件の詳細は、下記アドレス専攻科情報デザイン科 Web ページ内の「入学者募集」をご覧ください。

### 専攻科情報デザイン科 Web ページ

[http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page\\_id=228](http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=228)

### 入学者募集について

[http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page\\_id=223](http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=223)

### 入学に関するお問い合わせ

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

※入試前（例年1月下旬を予定）まで教育相談等に対応できます。一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。

注1：1食330円（昼食）で、就学奨励費の対象となっています。注2：長期休業中や連休、学校行事の関係で年数回閉鎖します。注3：材料費等は保護者負担になります。選択科目等により、一人一人の額は異なりますが、概ね年間2万～3万円前後です。かかる金額については、授業で実際に使用する2ヶ月前に金額をお知らせし、納入していただきます。必要な物を学生自身が購入し、学校に持参することも可能です。また別途インターシップ保険料、学生会費等がかかります。注4：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。注5：普通校には通常ない領域で、障害そのものの改善に焦点を当てます。具体的には、療養の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般をとおして行われます。

## 情報デザイン科学科だより

Information Design Department

# IDDNewsletter

November 2020 11

IDDNewsletter

November 2020

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

[www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp](http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp)

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。